

山 中 だ よ り

山中
キャッチ
フレーズ

してもらおう
させられる人から
する人へ

枚方市立山田中学校 学校通信 第3号

発行 令和2年5月11日 校長 交久瀬 善浩

◆◆新型コロナウイルス感染症による臨時休校措置の再々延長と日々の過ごし方について◆◆

国の新型コロナウイルス感染症対策による緊急事態宣言が5月31日(日)まで延長されました。それに伴い、3月に始まった臨時休校措置も5月31日(日)まで再々延長されました。前回4月11日(月)から13日(水)にかけて登校日を設けて以降、最初の緊急事態宣言が出されてからは短時間の登校も不可能でしたが、今回は5月11日(月)からの1週間では1回、5月18日(月)以降は週2回のペースで登校日を設けることが可能となりました。その5月11日からの1回目が本日だったのですが、久しぶりの学校、どうでしたか?初めて新しい学年のクラスのメンバーと顔を合わせるようになったと思いますが、それを楽しみに登校できましたか?

ところで生徒のみなさん、長引いている臨時休校による自宅待機のなかで、みなさんは自分の生活のリズム(自宅生活での計画性をもったもの)を築けていますか。また、毎日の自主学習を計画的に進められていますか。今日の配布物のなかに、「家庭学習計画表&学習の成果」という冊子が入っています。これは、みなさんが毎日の学習計画を自主的に立て、自分の気持ちを自分で制御(コントロール)して学習を進め、その出来具合を自分で評価するための表です。他人から「こうなさい、ああなさい」と指示され、学校の授業や塾のように時間を他人に決められ、教室に入れられてするものではなく、自分ですべて決めて、自分の力で実行して、その評価も自分でするという、これまでみなさんがほとんどしてこなかったことをするための表です。みなさんには、これを大変重要なものとして認識してほしいのです。そして、必ず自分で実行してほしいのです。その理由を以下に書きます。

(理由)

日本電産の会長で永守重信氏という人がいます。47年前に社員3人で立ち上げた会社を、今や年間売上高1兆5千億円の大企業にした日本屈指のカリスマ経営者です。5月6日のNHKのニュースウォッチ9で番組キャスターの有馬氏が永守氏のある言葉がきっかけで取り上げられていたのをたまたま見たのですが、その永守氏の話の中に「…みんな言ってみれば指示待ち族なんですよ…」という言葉がありました。これは、今回の新型コロナウイルスの感染防止と社員の命を守るためにテレワークにした結果、社員のほとんどがテレワークによる業績(仕事の成果)がほとんどあげられていないことから出てきた言葉です。永守氏のこの言葉の前には次のような前置きがあります。「普段はみんな会社に来て部長や課長の細かい指示のもとに働いて、そして実績を上げている。だけど、テレワークになって部長や課長の指示がなく家で働くことになると、ほとんど実績を上げられなくなった。自分でどうしていいのかわからない」という言葉があります。どういう意味かわかりますね?



ここまでなら、ああそうですか…で終わるのですが、ここで永守氏はあることに気づきます。このテレワークでみんなが実績をあげられていないなか、普段の1.4倍も実績を上げている社員がいることに気づくのです。そのことで先ほどNHKのキャスターが取り上げた永守氏のある言葉「猛省している」に繋がっていく訳なのですが、実は永守氏、みなさんも少しネットで調べればわかると思いますが、とてもワイルドな経営者でモーレツな社風を作ってきた方なのです。ちなみに永守氏のとても有名な言葉に、「**すぐやる! 必ずやる! 出来るまでやる!**」があります。私もとても好きな言葉ですし、この後書いていくことでも必要な言葉なのですが、永守氏は会社全体でこれを実践していました。チーム、組織で部長や課長を中心にその指示のもとに全社員が一丸となって業績を上げていったのです。

ところがここにきてテレワークをしなければならなくなり部長や課長の指示がなくなると、社員は何をどうやっていいのかわからなくなり、とたんに業績が落ちてしまったのです。だけどその中で、ほんの一部ではあるけれど、以前よりも業績を上げている社員がいる。このことに永守氏は着目して「猛省」したと言っているのです。

この一部の社員、どういう社員かみなさんはもうわかりましたか?

そうです。「してもらおう させられる人から **する人**へ」の「**する人**」です。

(裏面に続く)

「自分で考え、創造し、自分で決断し、自分の力で実行する」「自分でできる人、自分でする人」です。

私は、日本電産の社員が、永守氏の言う「指示待ち族」になっているのは、永守氏の会社の社風の為だと思いません。この原因は、今の日本の教育の在り方、子育ての仕方そのものによるものだと思います。だから、日本電産に限らず、今の日本の社会全体がこの傾向にあると思っています。

小さいころからおもちゃを存分に与えられ、今やスマホ。創造力を高めるためにとても大切な小さい頃の遊びすら、大人から与えられた物で遊び方まで指示される。学校に行くようになると、勉強はすべて学校や塾で指示された通りの勉強をする。そして、その指示通りにでき、答えがあるものの解き方をしっかりと覚えられた者だけがテストで良い成績をとり、評価される。高校や大学の進路もそれによって決まる。これでは、指示された通りに実行できる人（指示待ち族）が育ってしまうはずで、創造力も育たなければ、自分で考えて自分で行動する力なんて育つはずがない。当たり前の話しです。これは、今の若い人たちやみなさんや子どもの責任ではないのです。

日本の教育、何故こうなったのでしょうか？実は日本は、江戸時代までは中国や朝鮮、そして江戸末期からこれまではヨーロッパやアメリカで発明・開発されたものを模倣し、その中でさらに技術を磨いて、より良い製品、より便利で使いやすい製品を作り上げること（物づくり）によって発展してきました。社会の仕組みや構造もみんな海外から輸入し、日本風にアレンジしたものです。つまり、日本の発展は答えのあるものを目指してきたのです。だから創造力はさほど必要なかったのです。如何に効率よく性能の良いものを作るかが味噌だったのです。そのために全体主義、チームワークが重視され、全員が意思統一して、誰かの指示によって動く。社会形態が資本主義であれ社会主義であれ、どんな形態であろうと日本ほど支配者にとって支配しやすい国はないと言っていいほどの社会になっている。そこに果たした教育の成果は大変高いものと言っていいでしょう。

しかし、それでは立ちいかなくなった…。これからの日本は、超高齢化社会、若い働き手が極端に少なくなる社会のなかで、物づくりはこれまで発展途上国と言われていた国に移り、物づくりでは日本の経済が成り立たなくなったのです。全く新しいものや新しい価値を生みださないと生き残れない世界に放り出されたのです。海外の人をたくさん受入れ、社会構造を一新しなければならない時代、それを築かないといけないときなのです。



ヨーロッパやアメリカは一步先を行っています。いやこれまでも全く新しいものや新しい価値を生みだしてきていますから、向こうの国ではこれまで通りなのですが、日本は子育ての仕方や教育の仕方、社会構造、そして一人ひとりの意識まですべてを変えていく必要があるのです。

日本は物づくりに成功し昔に比べれば大変豊かな国になっていることは事実ですが、国民一人ひとりの生産性はヨーロッパやアメリカに比べるとかなり低いのです。これは、新しいもの、新しい価値観を生みだせているか否かの差です。物づくりでは成功を収めたが、その先が…、なのです。



この先に進むためには、「自分で考え、創造し、自分で決断し、自分で行動できる」人が如何にたくさんいるかがカギを握ってきます。そういう人を育てられる社会や教育システムを作らなければならないのです。そして皆さんは、そのことを意識して、自分の考えや行動を決めていってほしいのです。

最初に述べた日本電産の永守氏が、これから会社の人材をどうしていかないとの考えを持っていらっしゃるか想像できましたか？「テレワークで実績を上げている一部の社員」、それがこれからの日本にとって、とても必要とされる人材です。

私が考えているこれからの皆さんが乗り越えないといけない課題は、①超高齢化で働き手が少ない社会をどう乗り切るか、②新しいもの、新しい価値の創造、③社会構造の改革（SDGs 的な発想に基づき考えることも必要かもしれません）等々です。それを「すぐやる！必ずやる！出来るまでやる！」でないといけないのです。そして、その皆さんの一步となるのが、今回のコロナウィルスによってもたらされた臨時休業による家庭での過ごし方です。これを「自分でどう考え、どう決断し、どう行動するのか」によって、この臨時休業でできた素晴らしい機会を、そして一生に一度しかない時間を、みなさんが生かせるか殺してしまうか決まります。「家庭学習計画表&学習の成果」はその一步を記録するものです。とても重要なものです。一日の計画を、学校の時間割のように時間を決めて教科を決めて取り組むのもよし、教科に囚われずに自分で考え、身につけたいことや学びたいことに使うのもよし、みなさんの自由です。但し、自由には結果に対する責任が伴うということは考えに入れておきましょう。さらには、この責任を逃れようとする人は、してもらい族であり指示待ち族であるということも忘れないように。

とても長くなりましたが、ゆっくり時間をかけて読んで考えてみてください。みなさんの行動に期待しています。